

造

リフォームにおける 作あれこれ

リフォームにおいて、間取りを検討し直す上でさまざまなことを同時に考えていく一つに「造作」がある。その「造作」のあり方を各ゾーンごとに紹介していくことにする。

居間



「造作」としてまず挙げられるのは家具関係。間取りのプランニング段階で家具や置物のレイアウトを同時に計画し、その中でどの部分を「造り付け」としていかかを決定する。機能面、デザイン面からその必要性を検討し、インテリア全体を見ながら仕上の素材や色を決定できる利点をいかしていく。また、細部のディテールや金物についても検討することが重要となる。

家具のほか、その空間を演出する部分にも「造作」を必要とするところが多く出てくる。照明を建築化したり、壁面にニッチ等の装飾棚を設けたりもその一つである。その空間を大きく左右する要素でもあるので、あらかじめプランニングの段階で盛り込んでおきたい部分である。

水回り



いろいろ製品化されたものが選択肢として用意されている部分でもあるが、必要なものを必要な位置に取り入れながら造り込んでいく方法も検討したい。構造体のからみなどで制約がある間取りにも対応できるメリットがあり、プランニングの自由度を広げることができる。意匠的なことのほか、コスト面でも調整代があり、「造作」をさまざまな角度から楽しむことができる。

洗面台、トイレまわりのほか、条件により浴室も造ることが可能。ユニットバスゆえのデッドスペースが活用できたりもする。工期を必要とし、精度が製品化されたものとは比較できないが、優先順位を決めてプランニングの段階でそれぞれのメリットデメリットを整理しておきたい。

居

水

食

収



キッチンのスタイルにもよるが、オープンスタイルの場合は何かと課題が多い。他の水回りと比べて「表」としての役割を持つことから、特に「造作」する意味がある部分といえる。計画の際の自由度も高く、厨房機器のみならず家電収納、ダイニングテーブル、食器棚まで全体を建築に取り込むことで、より計画的な使い方とインテリアの一体感を図ることができる。

厨房まわりは目に付く大物の機器が多く、インテリアを大きく左右する上、雑多になりやすい。まずはキッチン全体の使いながら細かなものの収納まで、必要なことや必要なものを幅広く検討することが重要である。

食堂・厨房

各部屋にただ収納スペースを設けるだけでなく、居るところに必要な「納めどころ」を「造作」を通じて計画していくことができる。「住まい方」をリフォームできる要素を多く含んでいることから、何かを付属したり、何かを兼ねたりして型にしていけることも有効である。デスクと本棚、仏壇と押入などもその一つである。

持ち込む「物」の量を整理し、収納スペースと置き家具のどこに納めていくかを検討することが重要で、プランニングの前にそれらを把握しておきたい。「造作」したことで使いづらくならないよう、フレキシブルな計画も要する。

収納

